

## 独立行政法人水産大学校の平成22事業年度評価結果の主要な反映状況

### 1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成22年度の総合評価が「A」評価であったこと及び評価委員会における指摘がなかったこと等から、評価結果による役員の交代等は行わなかった。
----------	--

### 2. 役員報酬への反映について

役員報酬への反映	中期目標に定められた業務について、当該目標を達成するための中期計画に沿った年度計画が順調に実施され、平成22年度業務の実績が独立行政法人評価委員会において「A評価」を受けたところであったことを踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。
----------	---

### 3. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	22事業年度評価における主な指摘事項	平成23及び24年度の運営、予算への反映状況
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	事務遂行上の無駄を排除するチームや省エネ推進のためのチームを立ち上げたことは評価するが、それぞれ具体的な数値目標を設定することが望ましい。	平成23年度においては、例年消費電力が最大となる夏期の電力使用量について、対前年比8%減と具体的な削減目標を定め、省エネに取り組んだ。この結果、前年同時期に比べ、15.4%の削減を行うことができた。 また、従前の取組として、平成16年度を基準として平成24年度までに温室効果ガスの排出量を8%以上削減する、温室効果ガス排出抑制実施計画を実施している。
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	本科、研究科とも入学定員管理の課題をまだ残している。本科では、定員がわずかだが一般的な基準となる110%を超えているため、注意をされたい。研究科の水産資源利用学専攻は、今も定員管理を厳格にしなければならない水準にある。	研究科の入学定員については、平成22年度入試から厳格な定員管理に努めたことにより、平成24年度の在学生は18名（水産技術管理学専攻：9名、水産資源管理利用学専攻：9名）となっており、専攻別の定員についても適正となった。 また、本科の平成24年度入学者数については、203名となっており、110%を下回っている。